

日中韓大学生交流事業
TOMODACHI100 プロジェクト

認定 NPO 法人 地球市民の会

事業報告

1. 主催

佐賀県、認定 NPO 法人地球市民の会

2. 後援

佐賀大学（オープンカレッジ、日本語弁論祭）、佐賀県日中友好協会、
上海市人民対外友好協会、中国日語教学研究会上海分会、釜山韓日文化交流協会

3. 事業名称

アジア・パートナーシップ・プロジェクト「TOMODACHI 100」

4. 事業実施経過

<対 中国>

2014 年 1 月 関係者へ再度事業説明

4 月 上海へ

（大学生募集開始⇒大学へ直接募集依頼、上海日本語教育研究会を通して募集）

6 月 招聘者の確定

8 月上旬 来日準備

<対 韓国>

2014 年 4 月 鮮文大学の黄教授へ協力依頼→募集開始

5 月 釜山韓日文化交流協会へ協力依頼

6 月 釜山で募集開始

7 月 参加者決定（釜山では協会による事業説明会）

8 月 来日準備

<対 日本>

2014 年 1 月 各団体、行政、企業等へ協力依頼

4 月 各団体とのプログラム打ち合わせ、
プログラム確定、参加者募集チラシ作成

6 月 大学へ参加者募集説明

各種手配・調整（バス借り上げ、道具手配等）

福岡・佐賀県内大学へ大学生参加者募集と学生スタッフ依頼

7 月 受け入れの団体との打ち合わせ、ホストファミリー依頼
参加者確定

8 月 参加者へプログラム送付

受け入れ団体との最後の打ち合わせ、ホストファミリー決定

5. 実施内容

中国、韓国から日本語を学ぶ大学生を佐賀に迎え、さまざまな文化・経済・学術等の視察や交流及び、ホームステイや同世代の日本人大学生との合宿や人と人の交流を通して相互理解を深め合い、地域活性への促進、及び、パートナーシップの構築を目指す10日間のプログラム。

参加者：中国人大学生19名、韓国人大学生7名、日本人大学生3名、スタッフ12名

日程：2014年8月18日（月）～27日（水）

スケジュール表：

| 日程 | 内容 | 場所 |
|-----------------------|---|----------|
| 8月18日（月） | 午前：中国人・韓国人大学生到着 午後：佐賀県庁表敬訪問、オリエンテーション | 北山少年自然の家 |
| 8月19日（火） | 午前：伊万里アイ・ケイ・ケイ株式会社訪問 午後：有田ポーセリンパーク | 武雄温泉京都屋 |
| 8月20日（水） | 午前：徐福長寿館見学 午後：日本文化体験（茶道・華道・琴） 夜：BBQ（夢楽人） | サンシティホテル |
| 8月21日（木） | 午前：日本人参加者合流、サンポー食品訪問 午後：日中韓ワークショップ 夜：懇親会 | 北山少年自然の家 |
| 8月22日（金） | 午前：買い物（夢タウン） 午後：佐賀大学オープンカレッジ 夜：ウェルカムパーティー、ホストファミリー対面式 | ホームステイ |
| 8月23日（土） ～8月24日（日） | 終日：ホストファミリーと行動 | ホームステイ |
| 8月25日（月） | 午前：安永訪問（ネイル体験） 午後：ビューテック二葉（着付け体験） | ホームステイ |
| 8月26日（火） | 午前：フラワーアレンジメント 午後：日本語弁論祭 夜：さよならパーティー | 佐賀県青年会館 |
| 8月27日（水） | 中国人・韓国人大学生帰国 | |

6. 主な活動詳細

18日(月)「表敬訪問」

佐賀県を訪れるということで最初に表敬訪問しました。中韓学生は歓迎の言葉をいただき、佐賀・日本で何をしてみたいかを談話しました。



19日(火)「アイケイケイ株式会社訪問」

佐賀県で上場している企業として、日本人のおもてなしを学ぶための研修。仕事に対する思いや注意していることなどを体験しながら勉強した。



質問タイムで、日中韓の披露宴文化の違いも知ることができました。

20日(水)「徐福長寿館見学」

日中韓交流友好のシンボルとされている徐福さんについて学びました。



「日本文化体験（琴・華道・茶道）」

日本文化に触れるという貴重な体験をしました。日本の琴をしたいということでこのプログラムに参加した学生もいました。



「夢楽人 BBQ」

新馬場通りにある夢楽人にて、地域の方々の協力のもと BBQ を行いました。中韓学生一名ずつはラジオ出演をして、佐賀に来て観ての感想などを語っていました。



勉強だけではありません。みんなで盛り上がりました。これまで中韓の学生の間にあった壁もなくなり、国境を越えた BBQ 交流になりました。

21日（木）「サンポー食品訪問」

工場を見学しました。参加者は、「工場見学は楽しい。特に日本の工場は。」と言っていました。製造技術・衛星管理など学ぶところは多かったようだ。当初の予定では試食を2種類できるということだったが、中韓学生の反応がよく、4種類の試食をさせていただきました。



「日中韓ワークショップ」

日中韓の学生が集まり討論するのは非常に貴重な時間であった。「各国の問題について、それから私たちに何ができるのか」について話し合いました。参加者の感想でもこのワークショップのことを述べる学生も多かった。



22日（金）「佐賀大学オープンカレッジ&ウェルカムパーティー」

午前中は、佐賀大学の説明、佐賀大学の農業分野や理工学分野の講義が行われた。また、この日からホームステイであるためホストファミリーと一緒にウェルカムパーティーを行いました。これまでの日程で仲良くなった日中韓の学生はホームステイに行きたくないと漏らす学生もいました。対面式はアットホームな雰囲気非常に盛り上がりを見せました。



佐賀大学への留学・入学の仕方なども学び、このメンバーから佐賀に来る人もいるのかも？！



今回のメインプログラムでもあるホームステイ。日本・佐賀の家庭に泊まり、生活を共にすることで魅力を十分に感じたのではないかと思います。ホストファミリーと早くも打ち解けており、スタッフは親離れをする子供を見守る思いでした。

25日(月)「安永&ビューティック二葉訪問・体験」

安永さんではネイル体験、ビューティック二葉さんでは着付け体験を行いました。



女性参加者の多かったこともあり楽しんでいました。

26日(火)「フラワーアレンジメント」

佐賀大学菱の実会館にて、ホームステイでお世話になったホストファミリーへのプレゼントのフラワーアレンジメント作り。文化体験での華道とはまた違った楽しみがありました。



「日本語弁論祭」

このプログラムも通じて、日本・佐賀の魅力、楽しかったこと、学んだことなどを日本語で発表しました。



日本に来てからの日本人の心に非常に感動したというスピーチが多かったです。何より、テレビでのイメージとはいいい意味で違うことが多くて驚いたということです。

「本当のことを知るためには実際に交流をすることが一番必要であると感じました。」

コメンテーターからも短期間でここまで日本人のことを見てくれて嬉しいとのコメントも

ありました。

「さよならパーティー」

最後のプログラムであり、スライドショーを流し、一人ひとり感想を述べました。参加者同士の別れ・スタッフとの別れ・ホストファミリーとの別れの日です。



ホストファミリーからの一言の際は泊まった参加者と一緒に話を行い、涙・涙の別れでした。短い期間のホームステイだったが充実して楽しい時間を過ごせたのが伝わってきました。

7. 事業の課題（地球市民の会スタッフ+学生スタッフ）

今回の事業期間中は雨天が多く見受けられた。また、様々な事態に陥った時の事前の対処方法（リスクマネジメント）が重要になると思う。

① 雨天時や空き時間の活用

今回の事業中雨天の日が多かった。また、参加者から「今何の時間？」などの声も上がった。長期日程のため時間に余裕をもってプログラムしていたのもあるが、様々なケースを想定して計画を立てておく必要がある。

② スタッフの行動把握、声掛けが不十分であった

全通しのスタッフが少なく、また事前ミーティングによる情報共有が不十分であったため、スタッフが何をすればよいのか。声掛けの行き届きが不十分であった。そのため、表敬訪問での失礼な態度をさせてしまった。また、空港で場をわきまえず行動し苦情が出てしまった。

スタッフ事前ミーティングを小まめに行い、各プログラムでの行動・注意点の情報共有を徹底する。

③ ホームステイ受け入れ先広報方法・コンタクトをとる

受け入れ広報を一般家庭のみではなく学生のいる家庭にも声掛けをする。また、ホームステイ中の写真入手が困難であったため、ホストファミリーとコンタクトを取り写真提供を協力してもらう。

④ 各会場の事前調査の徹底

カササギホールでは事前の音響、会場の確認が取れたが青年会館では事前の確認をしておらず、音響調節に手間がかかった。

⑤ 名札について

部分参加のスタッフがいたこと。できるだけ早くなじめるためにも事前に名札をフルネームでよいので作っておく。それでもあだ名をつけたほうが覚えやすいのでオリエンテーションであだ名を裏面利用で書く。また、名簿を事前にもらっていたので名前をすべて事前に把握しておくべきであった。多少ではあるがそちらのほうが顔と名前の一致が迅速に行える。

⑥ デジカメの利用推進

スライドショー作成などの際にデジカメの写真、携帯の写真が混在しており、手間がかかることや写真の大きさが違うなどタイムロスになった。すべてデジカメの写真で作るというのは難しいと思うが、持ってる人は使うようにと呼びかけるべきである。

⑦ 予算、アクティビティの見直し

北山少年自然の家での食事は口に合わないという声も見受けられた。金額的にも安いとは言えない。そこでその金額でみんなで夕食作りなどのプログラムを入れるのはよいかと思う。

8. 事業の成果

本事業は、1年以上も前から準備をしてきたことであり、何より、様々な団体や個人の方々にご協力をいただいた結果である。

- ・今回の交流事業により、多くの地域住民の方々や学生に参加してもらい交流ができた。地域住民の方々も交流があることで、参加しやすく中国人・韓国人との交流を楽しんだ。
- ・参加者は佐賀のことを知らずに来日したが、佐賀は空気がきれい・空が好きなど自然の良さを感じる参加者が多く。魅力をうまく伝えられたと思う。
- ・空き時間を利用して、参加者が交流をしようとする姿が見受けられた。
- ・日中韓で、各国のイメージが少し変わったという参加者が多かった。

政治や教育の影響もあり、始まる前はお互いに不安な部分もたくさんあったが、ホームステイや学生交流を通し、不安な部分も解消されたと言っていた。また、日本に来たいと思う学生が増え、この事業を多くの人に紹介し、ここから友好を拡げていきたいと思ってもらえたことは大きな成果である。

今後は、これまで関わった方々や参加者が継続的な交流を続けるためにも当会としてもフォローアップを行う。